GARP NEWS

MONEX 小委員会報告

今年の9月末に FGGE に関する WMO の IG Panel の会議が開催され，MONEX についても討議される予定である．MONEX に対する日本としてての態度については，過去の informal meeting，勉強会などで討論されてきたが，これらの結果を礎に，7月24日に開かれた MONEX 小委員会で9月の WMO の会議に向けての具体的な活動の検討がなされた．

JOC の Döös 氏から岸保教授への連絡によると，GARP Monsoon Experiment は Winter Monsoon も含めるようになった．これは，シベリア高気圧が吹き出すと，その一部は北東モンスーンとなり，それが一因となってマレー半島～インドネシアに大雨が降る現象を指したもので，日本の冬の天候に関係している北西モンスーンは含まれていないようである．MONEX を Winter Monsoon まで拡大することについて討論されたが，日本としてとくに意見は無いということになった．

WMO の新田氏からの連絡によると，MONEX の研究テーマ毎に優先度（priority）がつけられていたが，6月に開かれた JOC の Consultants の会議でこれらの priority は全て同等とすることが提案され，承認される模様である（これにより，日本に関係のあるモンスーン循環と梅雨なども priority 1 となる）．

以上のような計画の変更も踏まえて討論がなされたが，結論的にいうと，日本としての統一的な観測参加という問題は，梅雨に関しては中国の参加が不可欠であるのに現在では参加予定が無いということから，早急な結論は出さずに情勢の推移を見守ることとなったが，大学サイドでの境界層などの観測は可能性がありそうである．

また，日本として MONEX に参加する方法としては，調査，研究も重要となるが，これについては次の項目について早急に具体案を作ることになった．項目は

（1）解析
- 大規模じょう乱からみた梅雨
- モンスーンじょう乱
- 南半球との相互作用
- 成層圏との干渉

（2）シミュレーション（山岳の影響も含む）

（3）低緯度境界層

（4）亜熱帯反流

（5）雲の観測

上の各案を8月末に予定している小委員会で検討し，今秋の WMO の会議に対する，日本の具体的要望，参加方法などを決定することになろう．

また，8月に開くと予告していた MONEX 勉強会は当分見合わせることになった．

（文責：朝倉正，田中康夫）

会員の広場

沖縄の地名

沖縄県に赴任して最初に困ったことは，人の姓が読めないことであった．「我如古商店はどのあたりですか？」と訊ねたくも，何と発音して良いやらわからない．これが（がにく）と正しく読めるようになったのは何カ月か経ってからであった．

他の府県でもそうであるが，ここの姓も大部分は地名からとっているようである．従って地名が読めれば人の姓も読める．ただし，その人がその土地の生れであるとは限らない．

沖縄の気象台のあるところは天久（あめく）であるが，東風平，南風原など気象に関係のありそうな地名もあり，これらは（こちんだ），（はえばる）と読む．城と書いて（ぐすく）と読むについては色々と故事来歴があるらしい．しかし．新しく命名する時は（しろ）と呼ぶらしく，豊見城（とみぐすく）村にある学校は豊見城（とみしろ）高校と呼ばれている．

勢理客（じっちゃく），越来（ごえく），伊武部（いんぶ），炬港（ていみなと），猫川原（まやがーばる），今帰仁（なきじん），大小堀（うふぐむい），為又原（びいまたばる），これらは本部（もとぶ）半島付近の地名であるがわれわれにはとても読めない．

沖縄の言葉は平安時代に日本語と分離して以降，独自の変化をして現在に至っているそうであるから，これらの語もそれぞれ意味を持っているものであって，当て字ではないと思うが，いずれにせよここの地名は他府県人泣かせである．

（宮古島地方気象台　赤羽俊朗）